

## 第 44 回 J-クレジット価格動向と展望

はじめに

カーボンニュートラル実現に向けて、世界各国で市場メカニズムを活用したカーボンプライシングに関する取り組みが活性化しています。世界銀行が公開しているカーボンプライシングダッシュボードを確認すると、図 1 に示すように 52 か国で排出量取引制度（ETS）等のコンプライアンスメカニズムが導入され、17 か国でカーボン・クレジット市場が運用されています（2025/12 公開情報より）。こうした制度は、2024 年に世界全体で 1,000 億ドルを超える公的歳入を生み出しています。

### Carbon pricing instruments around the world, 2025

Map shows jurisdictions that have implemented Direct Carbon Pricing Instruments - Compliance instruments (Emissions Trading Systems (ETS) and Carbon taxes) and/or domestic carbon crediting mechanisms, subject to any filters applied. The year can be adjusted using the slider below the map.

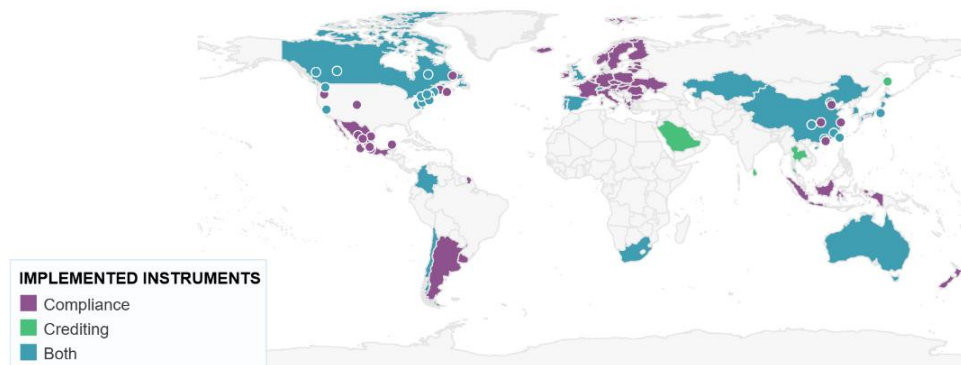


図 1.コンプライアンスメカニズム及びカーボン・クレジット市場を有する国

出典：World Bank「Carbon Pricing Dashboard」

(<https://carbonpricingdashboard.worldbank.org/>)

## 日本国内の動き

日本国内においても、2023年10月に東京証券取引所がカーボン・クレジット市場を開設し、その後、GX推進法の改正をはじめ、排出量取引制度の本格運用に向けて様々な議論が活発になされています。

かかるなか、日本のカーボン・クレジット制度であるJ-クレジット制度においては、前述した東京証券取引所における価格が2025年から急上昇しています。JPX（日本取引所グループ）が公開しているデータによると、図2に示すように特に省エネクレジットについては、2023年の年末時点と比較すると2025年12月時点では3倍以上に価格が上昇しています。

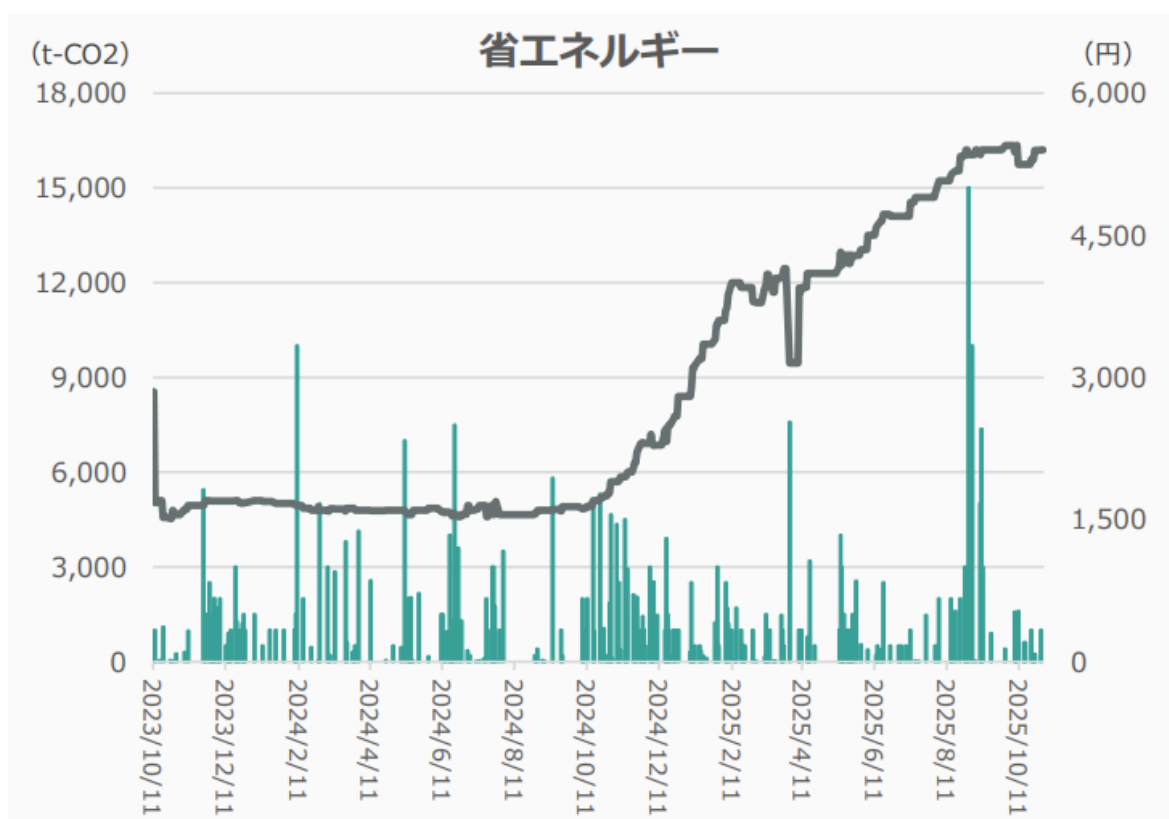


図2.J-クレジット（省エネクレジット）の価格推移

出典：JPX「市場開設以降の売買状況（2023年10月11日～2026年1月30日）」

(<https://www.jpx.co.jp/equities/carbon-credit/daily/nlsgeu000006ltge-att/TradedPriceandVolume.pdf>)

### 今後の見通しと影響

今後については、2026年4月に施行予定となっている排出量取引制度による影響が想定されるほか、長期的な価格動向については図3に示す世界銀行が公開しているカーボンプライシングダッシュボードに記載されている各国のETS価格水準についても参考になると思われます。

こうした価格の変動は、需要家側にとっては長期的な調達戦略等を考える課題となりますが、創出側にとってはこれまで採算が合わなかった小規模プロジェクト等の拡大にもつながる可能性があります。J-クレジット制度にご興味をお持ちの際は相談窓口までご連絡ください。

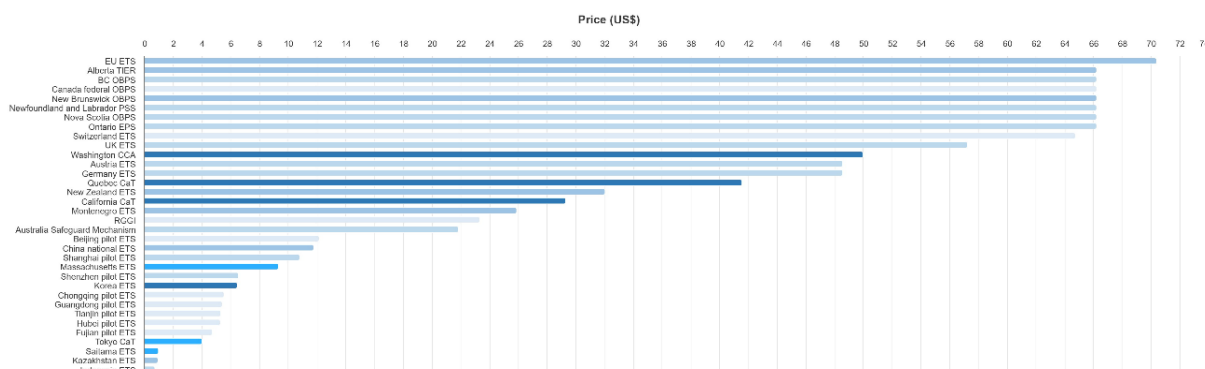


図 3.各国の ETS 価格

出典：World Bank 「Carbon Pricing Dashboard - Price」

(<https://carbonpricingdashboard.worldbank.org/compliance/price>)